

それと全く同じである。また、そのウイルスに感染しやすいような人種的な差はないとすると、後は、アフリカ人が住んでいるアフリカという地域の環境を考えてみるべきであろう。

御承知のように、アフリカには、マラリヤやトリパノリーマという原虫疾患、住血吸虫症やフィラリアという蠕虫疾患が蔓延している。また、蛔虫や鉤虫の感染者は、住民のほとんどに見られている。これらの寄生虫疾患のほとんどが、ヒトの免疫系を攪乱し、とくに、免疫系の細胞に感染するウイルスの感染力を増すという事実を著者は発見している。また、慢性感染症のため、免疫系が常に刺激されていると、エイズウイルスに感染しやすくなるという事実が最近発表された。

何故、アフリカのエイズだけが、異性間性交で感染しやすいか、この答はまだでない。エイズウイルスが宿主の T 細胞へ感染する過程に、色々な要因が介在しているであろう。低栄養や寄生虫感染をはじめとする慢性感染症などアフリカをとり囲む、自然のおよび社会的要因のいくつかがその risk factor として働いているに違いない。現在、これらの要因の解析を著者たちの研究グループは解明に向けて研究を続けている。

新刊紹介

◎マレーシア (Earl of Cranbrook ed : Malaysia. Pergamon Press, Oxford, pp. 317, 1988 邦貨約 11,000 円)

書名だけを見ると、マレーシアについての一般的な案内書のようなのであるが、Pergamon Press の Key environments series の一つで、内容はマレーシア（とくに半島マレーシア）の生物相および森林管理、鳥獣保護、森林に住む人々など、主として森林についての概説である。

内容は 1. 気象・土壌などの環境 (H.D. Tjia), 2. 森林タイプ (T.C. Whitmore), 3. フタバガキ (M. Jacobs), 4. 森林性ヤシ (J. Dansfield), 5. 森林性タケ (S. Dansfield), 6. 草本顕花植物 (R. Kiew), 7. シダ (R.E. Holttum), 8. 高等菌類 (E.J.H. Corner), 9. 森林樹木の生物学 (F.S.P. Ng), 10. 森林管理 (S.M. Nor), 11. けもの (多様性と進化) (H.S. Yong), 12. けもの (分布と生態) (Earl of Cranbrook), 13. 鳥類 (D. Wells), 14. シロアリ (N.M. Collins), 15. 森林性鱗翅目 (H.S. Barlow), 16. 淡水 (Earl of Cranbrook & J.I. Furtado), 17. 動物保護戦略 (M. Khan b. M. Khan), 18. 森林と人々 (A.T. Rambo) からなっている。

とくに新しい記述はないが、マレーシアの森林・生物に関するそれぞれの分野の第一人者の分担による概説だけに、マレーシアの森林を知るためのテキストとしては価値ある出版であろう。 (渡辺弘之)